

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性報告日）】

前週： 令和4年第48週 令和4年11月28日(月) ～ 令和4年12月4日(日)

今週： 令和4年第49週 令和4年12月5日(月) ～ 令和4年12月11日(日)

項目		前週	今週	前週比	これまでの最大値		
感染の状況	① 陽性者数	① 総数	10,918人	11,896人	↗	22,063人	令和4年第30週
		医療機関報告分 ^{※1}	9,105人	9,834人	↗		
		セルフテスト陽性 ^{※2}	1,813人	2,062人	↗		
	② 対人口10万人（総数）	709.0人	772.5人	↗	1,433人	令和4年第30週	
	③ 前週との増加比（総数）	1.14	1.09	↘	18.0	令和4年第1週	
④ 陽性率 ^{※3}	54.6%	57.1%	↗	64.3%	令和4年第30週		
医療提供体制	⑤ 入院患者（陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	223人	258人	↗	368人	令和4年第31週
		（病床使用率）	46.0%	53.2%	↗	93.9%	令和3年第33週
		（確保病床数）	485床	485床			
	⑥ 重症患者（陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	4人	11人	↗	68人	令和3年第34週
		（病床使用率）	5.8%	15.9%	↗	146.7%	令和3年第33週
		（確保病床数）	69床	69床			

※1 市内医療機関等から新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）により報告があった1週間の陽性者数の合計

※2 自己検査で陽性となり、その旨を神奈川県に連絡・申請し、登録された方の1週間の合計（神奈川県記者発表資料の件数を基に集計）

※3 陽性率を算出するための検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム（G-MIS）により報告があった検査件数（速報値）の合算を用いております。

※4 直近の日曜日の報告数

<モニタリング項目の見直しについて>

令和4年9月26日に全国一律で発生届出対象の見直しが行われたため、モニタリング項目を再検討し、令和4年10月4日公表分からは「陽性者数」、「陽性率」、「入院患者」、「重症患者」に係る項目のみ掲載することといたしました。

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果（川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載）

	前週 R4.11/28 ~ R4.12/4	直近1週間 R4.12/5 ~ R4.12/11	累計 R3.3/11 ~ R4.12/11
α 株（アルファ）	0件	0件	203件
β 株（ベータ）	0件	0件	0件
γ 株（ガンマ）	0件	0件	0件
δ 株（デルタ）	0件	0件	626件
o 株（オミクロン）：BA.1系統	0件	0件	581件
o 株（オミクロン）：BA.2系統	5件	0件	491件
o 株（オミクロン）：BA.4系統	0件	0件	8件
o 株（オミクロン）：BA.5系統	35件	11件	590件

※ここで記載している変異ウイルスの検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

<評価>

第49週（令和4年12月5日～12月11日）

第49週（今週）も陽性者数は増加していますが、前週との増加比は今週も前週より減少（1.14→1.09）しています。第45週1.25から第49週（今週）1.09まで5週連続してほぼ減少傾向にありますが、7週連続して1.0を超えています。今週の入院者患者数、重症患者数はともに前週より増加しています。

<感染の状況：直近1週間>

① 医療機関から報告された陽性者数は、第39週3,198名から、第42週2,203人まで4週連続して減少しましたが、第43週2,676人から、4,606人→5,726人→6,781人→8,007人→9,105人、そして第49週（今週）9,834人と7週連続して増加となっています。

セルフテスト陽性者数は第39週495人から、399人→459人→378人と推移しましたが、第43週450人から、814人→1,047人→1,249人→1,559人→1,813人、そして第49週（今週）2,062人と7週連続して増加となっています。

医療機関報告分とセルフテスト陽性者数の総数は、第39週3,693人から、第42週2,581人まで4週連続して減少しましたが、第43週3,126人から、5,420人→6,773人→8,030人→9,566人、そして第48週（前週）10,918人と1万人を越え、第49週（今週）は11,896人と7週連続して増加しています。

② 対人口10万人あたりの陽性者数は、第39週239.8人から、第42週167.6人まで4週連続して減少しましたが、第43週203.0人から、351.9人→439.8人→521.4人→621.2人→709.0人、そして第49週（今週）772.5人と7週連続して増加しています。

③ 前週との増加比は、第39週0.81から、0.78→0.97→0.92と推移し、第42週まで4週連続して1.0以下となっていました。第43週は1.21、第44週は1.73となりましたが、第45週1.25から、1.19→1.19→1.14、そして第49週（今週）1.09と5週続けて減少傾向にあります。ただし、7週連続して1.0を超えています。

④ 検査陽性率は、第39週40.2%から、36.2%→36.6%→34.8%→37.7%→51.3%→49.7%→50.5%→56.7%→54.6%と推移し、第49週（今週）は57.1%となっています。

<医療提供体制等の負荷：報告日12月11日現在>

⑤ 入院中の患者数は、令和4年第1週23人から毎週増加、第7週335人をピークとして第24週24人まで減少しました（第6波）。第25週41人から毎週増加し、第31週368人をピークとしてその後第43週61人まで、12週連続して減少しました（第7波）。第44週122人から、146人→165人→205人223人、そして第49週（今週）は258人と6週連続して増加しています。

入院病床使用率は、令和4年第1週4.8%から急増し、第7週70.2%をピークとして第24週4.9%まで減少しました（第6波）。第25週から毎週増加し、第31週75.9%をピークとしてその後第43週12.6%まで12週連続して減少しました（第7波）。しかし、第44週25.2%から、30.1%→34.0%→42.3%→46.0%、そして第49週（今週）は3.2%と6週連続して増加しています。

確保病床数は現在合計485床です。

⑥ 重症入院患者数は、令和4年に入った第1週は0人でしたが、第2週1人から第8週30人まで増加しピークとなり、その後減少が続き、第21週から第25週は重症入院患者0人が5週連続しました（第6波）。しかし、第26週から再び増加が続き、第32週14人となりました。第33週からは毎週減少し、第40週から第43週の4週間は1人となりました。（第7波）。第44週・第45週の3人から、第46週は1人と減少しましたが、第47週・第48週（前週）は4人、第49週（今週）は11人と増加しています。

重症病床使用率は、本年第3週4.3%から増加が続き、第8週の43.5%が第6波のピークとなり第9

週 2.9%まで減少が続き、第 21 週から第 25 週は重症入院患者数 0 人のため重症病床使用率も 5 週連続して 0.0%となっていました。しかし第 26 週 2.9%から増加が続き、第 32 週の 20.3%を第 7 波のピークとして減少し、第 40 週から第 43 週は 1.4%となっていました。第 44 週・第 45 週は 4.3%と増加し、第 46 週は 1.4%と減少しましたが、第 47 週・第 48 週（前週）は 5.8%、そして第 49 週（今週）は 15.9%と増加しています。

重症者の確保病床は現在 69 床です。

<変異ウイルス検出状況>

ウイルス株については、現在本市においてはオミクロン株のみの検出となっています。第 49 週（今週）は、オミクロン株 11 件中、BA.5 系統が 11 件でした。

本市における陽性者数は第 43 週から増加に転じ、第 44 週は入院中の患者数、入院中の重症患者数も増加に転じました。第 45 週・第 46 週は、陽性者数は増加しているものの前週との増加比は 2 週続けて減少、第 46 週・第 47 週の増加比 1.19 と変化なく、第 48 週（前週）1.19、第 49 週（今週）1.09 と、6 週続けてほぼ減少傾向にあると言えます。ただし、7 週連続して 1.0 を超えています。

入院者数は 6 週続けて増加し、第 49 週（今週）は 258 人でした。重症入院患者数は第 46 週は 1 人でしたが、第 47 週・第 48 週（前週）は 4 人、そして 49 週（今週）は 11 人と増加しています。現在の状況の入院数・重症入院者数であれば、日常生活の制限は少なく、また新型コロナのみならず通常の医療を含めた医療全体もなんとか落ち着いて行われていますが、何とか現状程度を超えないようにしたいところです。

重症患者ができるだけ発生しないように、発生しても医療で受け止められる（入院ができる、経過観察ができる）体制を取れるようにしておくことは、極めて重要なこととなります。

今の生活の状況を維持し、良い方向に向けていくためには、お一人お一人に基本的な感染症の予防に気を付けていただくことが大変重要になりますので、よろしく願いいたします。そのことによって、通常の医療、救急医療、お産などが、これまでどおりに維持できるようになります

師走となり、年末の動き、クリスマスや忘年会など、人の動きや集まりの機会も増加する季節ですが、やはり感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、あまり大人数にならぬようゆっくりと過ごされますようお願いいたします。一方、戸外や風通しの良い所、人と人の間隔が十分あいているような所では、マスクを外し、良い空気を吸う、体を動かすといったことも健康のために大切です。大声を避ける、密な状態を避けることができれば、必ずしも「黙食」である必要はありません。

毎冬話題となる季節性インフルエンザは、一昨シーズン・昨シーズンはほぼ流行的発生はみられませんでした。今シーズンは国内外で発生数が増加しています。本市ではこれまでのところ流行の兆しとまでは至っていない状況ですが、少数の散発的発生がみられています。毎年インフルエンザは 12 月に入ってから増加傾向が明らかとなってきますが、インフルエンザも新型コロナウイルス感染症も、基本的な注意は共通です。できるだけ三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は不織布マスクを正しくつける、閉鎖空間では換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどになります。また、もし発熱や嘔気・嘔吐・下痢などの症状がみられた場合には無理せず体を休めることも大切です。高熱が続く、息苦しさを感ずる、もともとの持病が悪化傾向にある場合などは、早めの受診が必要ですので、かかりつけの先生あるいは保健所などへご相談ください。

検査、受診などに関しては、川崎市ホームページ (<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000116178.html>) などにも案内が掲載されています。

新型コロナワクチンについて、本市においてもオミクロン株対応ワクチンの接種がすすめられています。接種対象となっている方におかれましては早めに受けていただき、免疫を強固なものにしておくこ

とを強くお勧めします。少なくとも3回の接種が、重症化を予防し、感染する割合を低下させることが国内外から報告されています。また、様々な事情でワクチン接種を受けていない方におかれましては、感染予防に関する注意は少し強めにしてくださいませよう、よろしくお願ひいたします。

インフルエンザワクチンも開始されています。高齢者の方等を対象とした定期予防接種については川崎市ホームページ (<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000017625.html>) をご覧いただくか、川崎市予防接種コールセンター (044-200-0144) にお問い合わせください。任意接種としてインフルエンザワクチンの接種を希望される方はかかりつけの先生や医療機関などにお尋ねください。

定期予防接種率の低下した国から麻疹や風疹、ジフテリアなどの発生の報告が届いています。普段の予防接種もお忘れなく受けておくことを強くお勧めします。